資料１

希望のまちづくり市民のつどいの開催について

～使用済燃料中間貯蔵施設新税調査検討特別委員会資料～

令和2年3月11日

むつ市新税検討プロジェクトチーム

１．概要について

開催目的について

◆ 新税創設の検討プロセスを市民参画の形で進め、**新税の使途についても市民ニーズをとらえたものとするため、**市民の皆様にとって最も身近な団体である町内会のほか、市政運営に深く関わり、市の様々な施策、計画策定等においてご協力をいただいている団体を中心に参加を依頼し、皆様に**新税についての理解を深めていただきながら、その必要性を確認し、グループワークを通じて新税の使い道を語っていただく場として開催**。

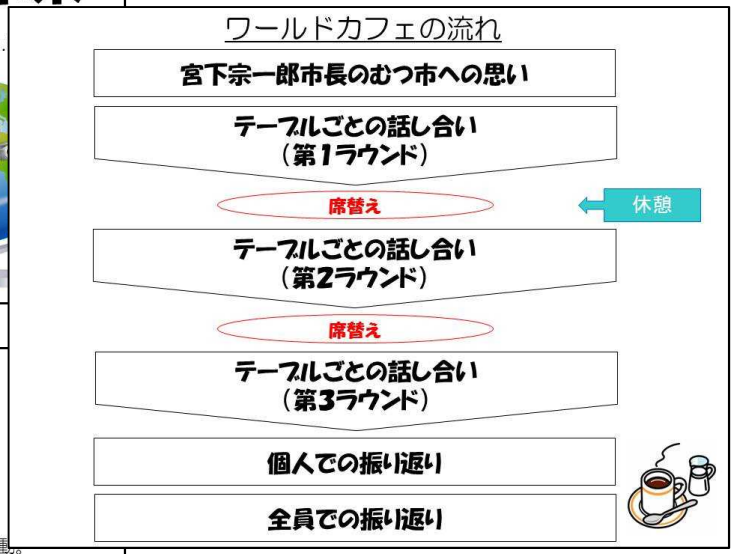
実施状況について

開催日時	令和2年2月22日（土）　14:00～16:00
会　場	下北文化会館　1階　展示ホール
出席団体数	86団体（参加依頼団体数：271） （分野別内訳）　子ども・子育て：5団体（6人）　健康：2団体（2人）　福祉：14団体（15人） 産業・経済：11団体（25人）　教育・文化・スポーツ：6団体（13人） まちづくり・防災：5団体（6人）　町内会：41団体（41人）　その他：2団体（2人） （地区別内訳）　むつ：64団体(74.4%)　85人（77.3%）　川内：8団体(9.3%)　9人（8.2%） 大畑：8団体(9.3%)　9人（8.2%）　脇野沢：5団体(5.8%)　5人（4.5%） その他：1団体（1.2%）　2人（1.8%）
参加者数	110名　（男性77名、女性33名、※高校生6名を含む）
ファシリテーター	青森中央学院大学経営法学部　准教授　佐藤淳氏

２．当日の進行について

- 「みんなで考える20年後のむつ市の未来」というメインテーマのもと、参加者を20のグループに分け、3つのラウンド毎に**テーマについての対話と席替えを繰り返す「ワールドカフェ」を実施**。
- 最後に、ワールドカフェでの議論を踏まえて参加者の方々が考える**「20年後のむつ市の未来のために、今、行政が、市民が取り組まなければならない一歩」**について、一人一人に紙に御記入いただいた。

ファシリテーター
青森中央学院大学
佐藤淳准教授



各ラウンドのテーマ

ラウンド１

むつ市の
「変わらずずっと守り続けたいこと」、
「困っていること、変えたいこと」
は何ですか？
日頃生活していて感じることを
具体的にお話し下さい。

【12分】

ラウンド２

20年後のむつ市の未来に
ついて想像してみて下さい。
現在私達を悩ましている問題が全て
解決しているとすると、どの様になって
いますか？
そこではどの様な人が、どんな暮らし
をしていますか？

【12分】

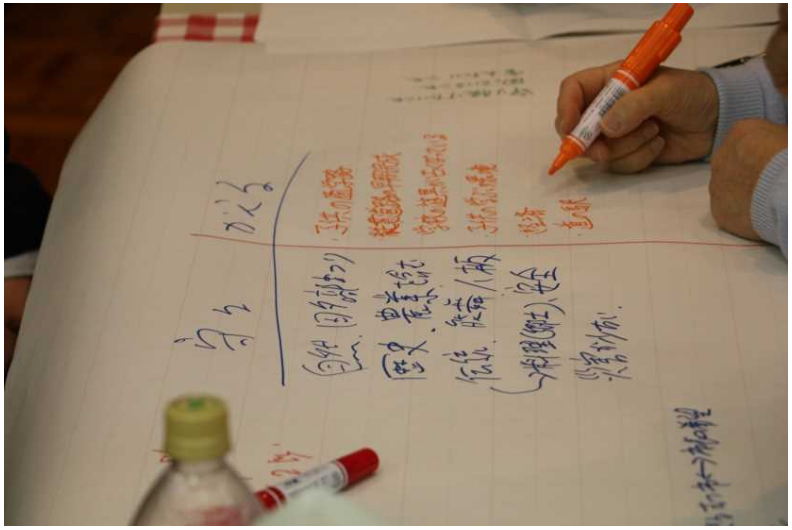
ラウンド３

そんな20年後のむつ市の未来を
実現する為に、
今、むつ市が取り組まなければ
ならない一歩は何でしょうか？
行政が取り組まなければならないことは？
市民が取り組まなければならないことは？

【12分】

３．当日の様子について①

- ◆ 10代から80代までの、年齢も職業も立場も異なる110名の市民の皆様に、**笑顔で、時には真剣に、まちの未来について語っていただいた**。
- ◆ 各テーブルに準備したアイディアを綴る模造紙は**各々の夢や希望がびっしりと書き込まれた**。



３．当日の様子について②

宮下市長の思い

- ✓ これまで市民の皆様からまちづくりに関するたくさんの要望をいただきながら厳しい財政状況であるために叶えることができなかった。
- ✓ 新税という財源を得られれば、それらの要望を実現できる可能性が高まる。
- ✓ 新税創設の一連の取組を通じて、市が自立をして、まちの未来を自己決定できるようにしたい。

高校生感想

- ✓ 皆さんエネルギッシュで、学生服を着たら高校に通える位元気一杯だと思った。
- ✓ まちも自立をさせ、成長させることが必要と感じた。
- ✓ まちは私達より長生きする。私達もがんばるのでむつ市もがんばってほしい。

高校生感想

- ✓ 高齢者をはじめ、いろいろな世代の方とまちづくりについて話し合う機会に参加したいと思っていた。
- ✓ このつどいに参加して、たくさんの方と話し合う経験ができてよかった。

４．参加者からの意見について①

・財政の健全化を見ざし（地場産業の発展・開発等）
むつ市を豊かにしてほしい
（建設業の地元）

その上で道路整備や
教育に力を注ぎ住みよい
住んでよかったというむつ市に
してほしいと思います。

（経済団体・女性）

むつ市が取り組まなければならない一歩

・インフラ整備

全てにつながります。
人口増も子供増も税収増も食・医療・教育も
インフラ整備が整っていないと不可能と思います。
「自立・独立」の為に環境整備を。
加えて市民意識の変革もうながせるかと…

（産業団体・男性）

◎医療体制の充実
医師不足を解消し、高度医療化を
目指して欲しい！

◎観光施設の充実
下北ジオパークの整備を進め、
観光の街を目指して欲しい！

◎教育・子供を守る！

（福祉団体・男性）

むつ市が取り組まなければ
ならない一歩。

◎大学等のむつ市で働く人
が増えるために人材育成を
できる場所を誘致する。

◎通学路や歩道などの
子供や高齢者の人が安全
に移動できる道路を整備
する。（街灯なども）

◎むつ病院の医者の数を
増やす。

◎若い世代が働ける施設
を増やしてほしい。

（高校生・男性）

★むつ市が取り組まなければならない一歩

財政の安定化
↳子供達が学ぶ場・情報の広がりで
この町でも何かやっていけるという期待感を
つくっていく。
年令など関係なく心身とも健康人口を増やす事で
元気な町づくりにつながり、他地域からも
「いい町だね」と言われるモデルを目指す
⇩
その為にも行政・市民関係なく1人1人が
主体者になっていく。

（まちづくり団体・女性）

むつ市への提案要望

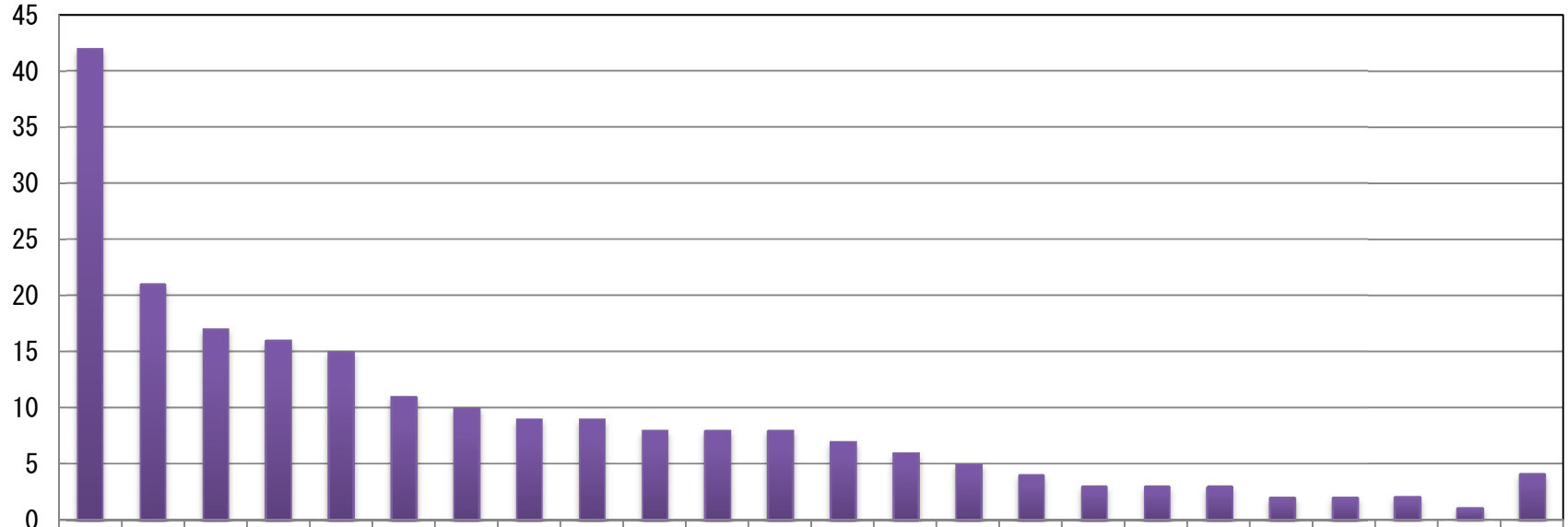
◎小・中学生の給食無料化・医療費無償化
◎大学進学希望者への学費等の一部支援
◎お年寄り通院・買い物等が容易にできる高齢者住宅の建設と
街のコンパクト化
◎農業、漁業、加工業者がIT等を活用してスマートで収入の高い
生活ができる支援
◎むつ市に来る人口（観光、祭り、イベント）を増やす取り組みの
充実（道路整備、看板設置、PR有効なお店）

（町内会・男性）

市民の皆様の思いがつまった１０７枚を受理。

４．参加者からの意見について②

「希望のまちづくり市民のつどい」における意見の分野ごとの集計



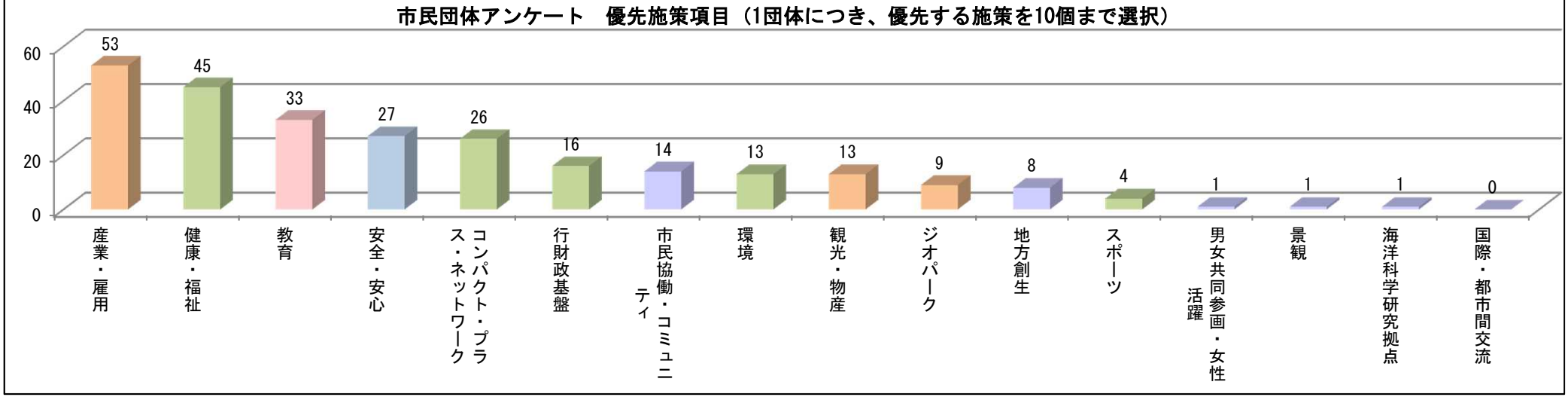
	雇用	インフラ	コミュニティ	定住	産業	交通	市政	医療	財政	出産・子育て	教育	広聴	観光	負担軽減	魅力向上	環境	商業施設	少子化対策	大学誘致	福祉	防災	協働	防犯	その他	合計
意見数	42	21	17	16	15	11	10	9	9	8	8	8	7	6	5	4	3	3	3	2	2	2	1	4	216

分類	意見数	構成比	主な意見
雇用	42	19.4 %	働く場の創出、企業誘致など
インフラ	21	9.7 %	道路整備、下北縦貫道、コンパクトシティなど
コミュニティ	17	7.9 %	町内会活動の活性化・支援、コミュニティ活動の場の確保など
定住	16	7.4 %	人口増加策の検討、若者の定着、婚活など
産業	15	6.9 %	一次産業を守る・再構築、ブランド化など
交通	11	5.1 %	公共交通網の整備、高齢者の足の確保など

５．今後の市政への反映について

- ◆ 希望のまちづくり市民のつどいの実施により、市民の皆様からいただいた市政に対するご意見を集約すると、雇用促進、産業振興、公共交通、定住対策等**これまで市が把握してきた市民の皆様のご要望の方向性と一致**。
- ◆ 今回の取組により得られた今後の財政需要、すなわちむつ市が目指すまちの理想像の実現に向け、**財源確保としての新税創設を成し遂げるとともに、今後の政策立案や事業実施に反映させていく必要性を改めて認識**。

第3回むつ市新税検討PT会議資料から抜粋



これまで市が実施した市民アンケートから読み取れる優先すべき施策（財政需要）

- ✓ 商工業、農林水産業の振興、新たな産業の創出
- ✓ 若者や子育て世代の就職・就労支援
- ✓ むつ総合病院の整備をはじめとする市内の医療体制の充実
- ✓ 子育て世帯への支援として、医療費の助成、保育・託児環境の整備・充実
- ✓ 毎日の生活に欠かせない公共交通機関、道路歩道の整備
- ✓ 各世代の市民が集える公園や屋内運動施設の整備・充実

＜参考＞新聞記事

令和2年2月23日　デーリー東北　3面

核燃新税どう生かす

むつ市民意見交換「20年後」テーマに

むつ市は22日、下北文化会館で「希望のまちづくり市民のつどい」を開催した。同市の中間貯蔵施設に搬入される使用済み核燃料に課税して得られる財源をどうまちづくりに生かすか、方向性を考えてもらうのが狙いで、参加者が20年後の未来をテーマに自由に語り合った。

20年後の未来について語り合った「希望のまちづくり市民のつどい」＝22日、むつ市の下北文化会館

86市民団体から110人が参加し、話し合いは4～6人の20グループに分かれ、ワークショップ形式で実施。ファシリテーター（進行役）は青森中央学院大の佐藤淳准教授が務めた。

参加者は、市について「ずっと守り続けたいこと」「困っていること、変えたいこと」を模造紙に記入。守りたいものでは祭りや自然を挙げたグループが多く、変えてほしいことでは医療体制、交通環境の充実を訴える記述が多かった。これらを実現するため、市と市民それぞれの必要な取り組みをまとめた。

宮下宗一郎市長は「市が自立し、自己決定できる街にしたい。街の未来を自分たちで決められるかが大事で、これは地方自治の最も大切な要素」と新税創設への思いを強調。提案された意見は、今後の市政に生かす考えを示した。

つどいには市の未来を担う高校生も参加。青森県立むつ工業高2年の坂井源さん(17)は「市長の言うように、まちも自立し、成長していかなければいけないと感じた。私たちも頑張るし、市も頑張ってほしい」と感想を述べた。（橋端智和）

反核燃2団体 一転受け入れ

むつ市が22日開いた「希望のまちづくり市民のつどい」には、核燃料サイクルに反対の立場を取る2市民団体が参加した。このうち「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」は今月、二度にわたって参加を申し出たのに対し、市側が「新税への賛否を求めるものではない」などと断っていたが、本番になって一転認められた。

今回のつどいは、市の各種計画の策定などで協力を受ける271市民団体に参加の案内を出していたが、宮下宗一郎市長は「参加要請があったので受け入れた。われわれは元より拒否しているわけではないし、特定の団体を区別しているわけではない」と語った。

つどいに出席した同会事務局の栗橋伸夫さんは「（まちづくりの方針を考える）このようなワークショップであれば、最初から受け入れても良かったのではないか」と市の当初の対応を疑問視した。

同日は「原発核燃をなくす下北の会」の中嶋寿樹代表も出席した。（橋端智和）

令和2年2月23日　東奥日報　3面

むつの将来 市民考える

新税検討の一環「つどい」

むつ市は22日、使用済み核燃料への新税を検討する取り組みの一環として、市民会議「希望のまちづくり市民のつどい」を同市の下北文化会館で開いた。市民らが、将来の市に必要と考える施策をテーマに意見を出し合った。

市は、今回の会議を新税が実現した場合の使い道案を市民から聞く場と位置づけている。会議で出された声を財政需要の検討の参考にする。

市内の住民団体、高校生ら86団体の110人が参加。青森中央学院大学経営法学部の佐藤淳准教授の進行で①むつ市で守り続けたいこと、変えたいこと②20年後のむつ市③行政、市民が取り組むべきこと―のテーマに沿って話し合った。

意見交換した内容を模造紙に書き込む「市民のつどい」の参加者

意見交換の前に、宮下宗一郎市長は「自分たちの未来を自分たちで決められるむつ市にしたい。新税を通じて実現し、まちづくりに生かしたい」と意義を強調した。市民からは「若者が生活しやすいまちに」「医療態勢の充実を」など、さまざまな意見が出された。

むつ工業高校2年の坂井源さんは「まちは私たちよりも長生きする。つどいに参加して、まちも自立して成長しなければいけないと感じた」と感想を述べた。

つどいには、反核燃団体も参加した。いったん市側が参加を断っていたが、団体側から書面で要請があったとして、受け入れた。宮下市長は「もとより、特定の団体を区別して拒否していることはない」と語った。（工藤洋平）